

地域つながるプロジェクト 地域つながるスタートアッププロジェクト

— 学生による地域活動 —



2024活動報告書

地域つながるプロジェクト 2024 地域つながるスタートアッププロジェクト 2024 活動報告書

01 挨拶

02 1年の流れ

03 プロジェクト一覧

04 プロジェクト活動報告

地域つながるプロジェクト 2024

04 ❶ 今日から僕らは五月っ子!?

06 ❷ 安川に咲かそう地域の笑顔 上安・みんなでフラワープロジェクト

08 ❸ 宮島観光活性化プロジェクト～中江町と創る新しい宮島～

10 ❹ 安芸太田に来てみんさい!!

12 ❺ 田幸を多幸に!

地域つながるスタートアッププロジェクト 2024

14 ❶ 安芸高田再発見!プロジェクト。

15 ❷ 平和台団地共助プラン

16 地域つながるプロジェクト・ 地域つながるスタートアッププロジェクト 2024 活動報告会

未知を切り拓く挑戦と創造の場としての 地域つながるプロジェクト

本学は「道を修める」という建学の精神に基づき、「地球的視野を持って、地域社会の発展に貢献できる人材の養成」を理念、教育目標として掲げています。また、開学 80 周年を迎える 2040 年に本学があるべき姿（ビジョン）として「開拓者精神：未知（道）を切り拓く挑戦と創造の拠点」を掲げています。学生だけではなく教職員を含めた本学の全ての構成員の持つ志が「開拓者精神」、具体的な行動が「挑戦」と「創造」、そして、その行動の目的として、校名にある「道」とその同音語であり VUCA の時代を表す「未知」を切り拓くこととしました。この未知を切り拓く挑戦と創造に学生たちが挑んできたのが、2010 年度にスタートした PBL※「地域つながるプロジェクト」です。本年度で 15 年目を迎えました。本年度の 5 プロジェクトを加えて、これまで 149 のプロジェクトが実施されてきました。

このプロジェクトは、地域の課題を解決する活動の企画・実施や調査・研究を行うことにより主体性や豊かな人間性を育成し、大学で得た知識を地域で応用・実践し、地域に学びを還元する活動や調査・研究に取り組むものです。本センターでは、これに要する経費の助成と、助言・指導を行っています。本プロジェクトは基本的に正課外（授業外）活動として行われますが、正課で得た「知識や学び」を、正課外のプロジェクト活動で「応用・実践」するものも対象となります。正課と正課外で連携して活動することにより、相乗効果が期待できます。

また、地域を知り、地域の人々と交流することで、地域の抱える問題を発見するとともに、地域の人々と連携していくために必要な心構えや知識を身に付けることに取り組むのが「地域つながるスタートアッププロジェクト」です。こちらについても、活動や調査・研究に要する経費の助成と、助言・指導を行っています。これは、2021 年度より開始したもので、4 年間で 16 のプロジェクトが実施されました。本年度の「地域つながるプロジェクト」の一つは、このスタートアッププロジェクトで発見した問題の解消を目指して取り組まれたものでした。2つの支援プログラムが機能している証です。

今年度は、活動報告会のフォーマットを少し変更しました。審査員として、「ローカルで暮らす魅力」、「地域で生きるための知恵」、「地域での若者が憧れる職業づくり」に取り組まれている方を招き、それぞれのプロジェクトを審査するだけでなく、プロジェクトの意味づけやこれからの展開へのアドバイスを頂くようにしました。これにより、活動報告会は、学生たちにおいて、これまでの活動を振り返るだけでなく、今後の活動の展開を見出す機会となりました。

本学において、地域つながるプロジェクトは、地域社会の発展に貢献できる人材の養成に向けた大切な学びの場であり、本学の有する「総合知」を地域のために活かす「種」の一つでもあります。今後も、この「種」を育て、学生や地域が豊潤になるように努めていきたいと考えております。

※ Project Based Learning；プロジェクト型学習、および、Problem-based learning；課題解決型学習

2025 年 3 月

ひろしま未来協創センター センター長

三浦 浩之

地域つながるプロジェクト 2024・

地域つながるスタートアッププロジェクト 2024

1年の流れ

2024 年

- 1月

1月19日（金） 募集説明会
- 4月

4月10日（水）、15日（月）、19日（金） 募集説明会
- 5月

5月20日（月） 地域つながるプロジェクト応募締切
5月21日（火）～書類選考
- 6月

6月 3日（月） 選考結果発表
6月 5日（水）～11日（火） 個別説明会
プロジェクトごとに活動

キックオフミーティング（熟議）

毎年、当該年度の早い段階で「熟議」の手法を取り入れています。「熟議」とは、一般的には、多くの当事者により「熟慮」や「討議」を重ねながら課題解決・政策形成をすることをいいます。それぞれのプロジェクトの関係者が集まって熟議をすることで、課題解決へのアプローチや活動の方向性を共有化しています。

- 7月

7月29日（月） 地域つながるスタートアッププロジェクト募集説明会
- 8月
9月

プロジェクトごとに活動
- 10月

中間報告 ※地域つながるプロジェクトのみ
プロジェクトごとに活動
10月31日（木） 地域つながるスタートアッププロジェクト応募締切

- 11月
12月

プロジェクトごとに活動

2025 年

- 1月

プロジェクトごとに活動
- 2月

2月14日（金） 活動報告会

プロジェクト一覧

1. 地域つながるプロジェクト

プロジェクト No.	プロジェクト名	人数	プロジェクト代表者 (リーダー)	担当教職員 (所属学部)
1	今日から僕らは五月っ子!?	8	前坂 綾未花 (まえさか あみか)	川瀬 正樹 (商学部)
2	安川に咲かそう地域の笑顔 上安・みんなでフラワープロジェクト	12	竹田 夏美 (たけだ なつみ)	世良 和美 (商学部)
3	宮島観光活性化プロジェクト ～中江町と創る新しい宮島～	8	後藤 直志 (ごとう なおし)	石田 崇 (人文学部)
4	安芸太田に来てみんさい!!	8	濱田 朋希 (はまだ ともき)	森河 亮 (法学部)
5	田幸を多幸に!	9	野々下 友渚 (ののした ゆな)	澤 俊晴 (国際コミュニティ学部)

2. 地域つながるスタートアッププロジェクト

プロジェクト No.	プロジェクト名	人数	プロジェクト代表者 (リーダー)	担当教職員 (所属学部)
1	安芸高田再発見!プロジェクト。	5	西川 大智 (にしかわ だいち)	山崎 敦俊 (商学部)
2	平和台団地共助プラン	4	小原 瑞稀 (こはら みずき)	澤 俊晴 (国際コミュニティ学部)

五月っ子のみんなで地域を活性化!

プロジェクト名

今日から僕らは五月っ子!?

プロジェクト概要

今年度は「高齢者」に目を向けることを活動の軸としました。地域行事への参加や運営を通して交流を深める活動と、高齢者をターゲットにした活動の2種類の活動を行いました。



概要と具体的な活動

地域行事への参加、運営では、地域のお祭りに積極的に参加し、地域の方との交流を深めることを目標としました。ふれあい広場と公民館祭りでは、学生自身がブースの企画、運営を行いました。ふれあい広場は台風の影響で中止となりましたが、一からブースの企画を経験できました。公民館祭りでは、ジュース販売を行うことで準備段階から地域の方と関わり、高齢者の方からは大学生にしてみたいことなどを伺うことができました。また、売り上げは公民館に全額寄付することで地域へ還元することができました。高齢者をターゲットにした活動では、広島修道大学案内会や地域住民の自宅訪問を行いました。案内会では、パワーポイント資料での説明の他に実際に学内を歩いて施設を案内しました。自宅訪問では、地域の方が考える地域課題についてお話を聞きました。

活動を通しての成果と課題

地域行事への参加、運営を通して、メンバーと地域の方の関係を築くことができました。今年度はメンバーの多くが昨年度から入れ替わり、地域の方との関係値がほぼゼロの状態でのスタートでした。しかし、お祭りなどで多世代に渡った交流や公民館祭りでの準備段階からの参加により、地域の方とより深い関係を築くことができました。そして、広島修道大学案内会では、メンバーが地域に行く活動とは異なり、地域の方に大学まで来ていただいたことが



メンバー

[学生]

前坂 綾未花・高木 康太
佐川 碧泉・岡田 百々花
荻原 実麻・安達 久貴
木村 拓夢・今津 崇矢

[担当教職員]

川瀬 正樹 (商学部)

ポスター



大きな成果であると考えます。一般の方が利用できる図書館などの施設紹介では、大学に興味をもち、楽しそうに学内を回られている様子でした。地域住民の自宅訪問では、生の声を聴くことで地域課題をより明確に知る機会となりました。

今年度の活動を通して、地域の方と学生のつながりを深めたことで、地域における学生との交流の壁を低くすることができたと考えます。今後の課題としては、地域の方からヒアリングした地域課題の原因を深掘りし、具体的な課題発見が必要であると考えました。目的、目標、手段と段階的に活動の存在意義を考え、活動中に立ち戻る原点を明確にすることも大事であると感じました。加えて、地域の方に五月っ子の活動を知ってもらうことも必要であると考えました。

参加学生の振り返り

私は今年度初めてこのプロジェクトに参加し、初めは地域の方との距離を感じていましたが、活動を通して地域の方との距離が縮まり、もっとこの地域を盛り上げたいと考えました。そして今後は目的をより明確にして活動を行いたいと考えています。

(商学部1年/佐川 碧泉)

連携協力先の方の所感

高齢化で担い手不足の団地に五月っ子の皆さんが今年度も各行事に積極的に参加してくれました。年々深まる関係の中に今年度はお年寄りのいる家に訪問してくれました。感謝です。今後も是非継続していただきたいものです。

(五月が丘地区社会福祉協議会 会長/津丸 俊二氏)



花で地域の笑顔をつないだ 1 年間

プロジェクト名

安川に咲かそう地域の笑顔 上安・みんなでフラワープロジェクト

プロジェクト概要

私たちは、広島市安佐南区の安川沿いで美化活動を行う河原町内会の皆様や社会福祉協議会の皆様と連携して、地域を盛り上げるために花をキーワードにした活動を行いました。



メンバー

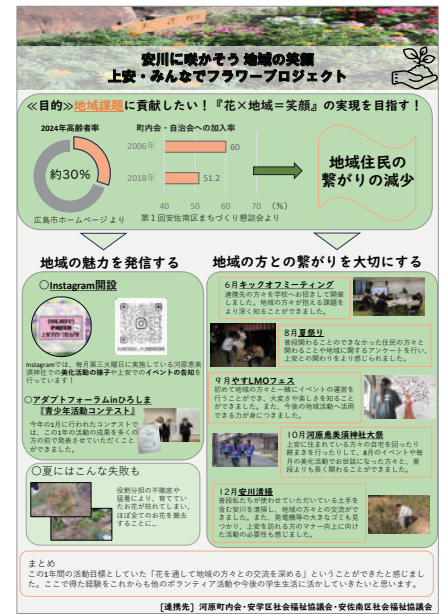
〔学生〕

竹田 夏美・中前 香澄
佐々木 妃奈・白惣 美希
濱田 南帆・吉川 由希子
池田 優菜・沖本 理紗
越智 友香・寺本 恵実花
柳生 桃花・福田 将梧

〔担当教職員〕

世良 和美（商学部）

ポスター

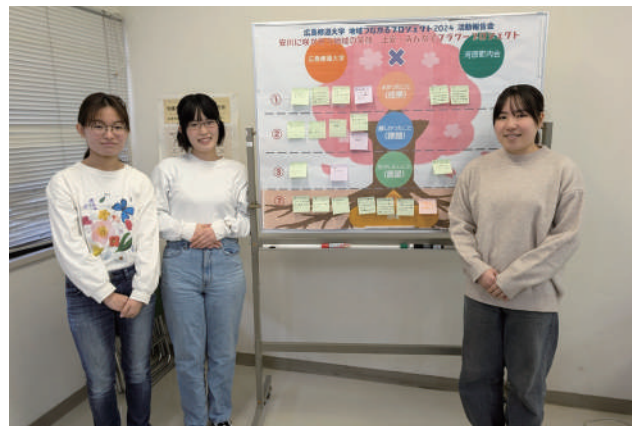


概要と具体的な活動

私たちは、広島市安佐南区の上安周辺地域で花を用いた地域活動を行いました。上安に所在する河原恵美須神社で、毎月第三火曜日に地域の方と美化活動を行い、その発展に努めました。そして、活動・発信・調査研究の3つの軸で活動を行い、それぞれで多様な成果を上げることができました。「活動」では、地域に出向き、イベントの参加や支援を行いました。また、自分たちで考えた花で地域をつなげるような企画を3つ行い、その中でも、ハーバリウム制作は、これまでの活動の成果をまとめるような企画になったと思います。「発信」では、Instagramの運用を行い、誰が見ても分かるようなデザインにこだわりました。「調査研究」では、参加したイベントでGoogleフォームを用いたアンケート調査を行いました。活動のまとめとして、花に関するコンテストの応募及び参加や、報告書の制作（10部）、安公民館での現地報告会を開催しました。

活動を通しての成果と課題

成果として、「活動」の面では、学生が地域に出向いた回数が多かったため、地域の魅力と課題について体感的に学べたことがあげられます。「発信」の面では、Instagramを運用する中で8投稿を達成し、Instagramの機能を使用して、美化活動を身近に感じてもらえるよう工夫しました。また、制作したチラシを安学区社会福祉協議会様に提出し、地域に配布してもらうことで、私たちの活動を広めることができました。「調査研究」の面では、Googleフォームを用いたアンケート調査を実施し、数値データの収集ができました。



課題として、「活動」の面では、一回限りの企画ばかりで、長期的な企画やその体制づくりにまで踏み込めなかった点があげられます。「発信」の面では、Instagramの投稿頻度を決め、使用していないInstagramの機能を駆使できるとより良い発信ができたと思います。また、チラシについては、より凝ったデザインで、さらに多くの施設に配布すべきだったと感じています。「調査研究」の面では、データ数が少なかったため、イベント時だけでなく地域の各施設へ依頼することで多くのデータを収集することができたと感じています。

参加学生の振り返り

新規で立ち上げたプロジェクトを、一年間で大きく成長させられたことが一番良かったと思います。役割の分業化や目標の設定など、土台を築くことに力を注ぎ、土台作りの重要性を学ぶことができました。

（健康科学部2年／竹田 夏美）

連携協力先の方の所感

制約が多い中で、ぼちぼちやっていけばよいかなと考えていた町内会の美化活動の中に、広島修道大学の学生が入ってきてくれたため、素晴らしい活動になったと思っています。こうした活動を継続していただけたら良いなと思っています。

（河原町内会 会長／沖本 正道 氏）



地域と世界がつながる宮島の町・中江町

プロジェクト名

宮島観光活性化プロジェクト
～中江町と創る新しい宮島～

プロジェクト概要

地域の人と外国人観光客がつながる「第3の観光拠点・中江町」を実現させることで、オーバーツーリズムや通過型観光地といった宮島全体に関わる観光課題の解決に貢献します。



概要と具体的な活動

本プロジェクトは、地域住民と外国人観光客の交流促進を目的とし、両者をつなぐ「場」と「手段」を提供しました。具体的には、「たのも船づくりワークショップ」の企画・運営、「ちゅうえマルシェ」の企画・運営、「やさしい日本語」フリーペーパーの作成、中江町の情報発信の強化を行いました。まず、「たのも船づくりワークショップ」では、学生が地域住民から船の造り方を学び、ワークショップ当日は講師として参加しました。企画・運営は学生が主体となり、挨拶、歴史説明、造り方説明、アンケート調査、終わりの挨拶など、ほぼ全ての業務を担当しました。次に、「ちゅうえマルシェ」は夏と冬に1回ずつ開催し、企画・運営は学生が主体となって行いました。冬のマルシェでは、帝京大学・三竝ゼミと協力し、地域産品を活用した商品開発を行いました。また、「やさしい日本語」フリーペーパーは、地域住民と外国人観光客の交流促進の手段として作成しました。内容は、外国人観光客にも理解しやすい「やさしい日本語」で記述しました。中江町の情報発信では、認知度向上を図るため、公式サイトを更新、SNSの更新、シンポジウムの企画などを行いました。

本プロジェクトでは、交流促進という目的を達成するため、様々な取り組みを実施しました。学生が主体となって企画・運営を行うことで、地域活性化に貢献するとともに、学生自身の成長にもつながったと考えます。今後は、本プロジェクトで得た知見や反省点を踏まえ、より効果的な交流促進の方法を検討していく必要があります。また、地域住民や外国人観光客のニーズを的確に把握し、持続可能な交流の仕組みを構築していくことが重要です。

活動を通しての成果と課題

本プロジェクトの成果は、「場」と「手段」の提供を通して、さまざまな方々とつながりを築いた点に集約されます。目標であった地域住民と外国人観光客の交流はもちろんのこと、交流を促すための活動を通して、



メンバー

[学生]

後藤 直志・岸 達哉
須賀 純花・戎 怜亜
太田 亘輝・長田 桜
山本 玲菜・宮本 瑛史

[担当教職員]

石田 崇（人文学部）

ポスター



私たち自身も地域住民、宮島で店舗を営む方々、他大学の学生など、さまざまな方々とのつながりを得ました。これらのつながりは、宮島の観光発展という共通の目的のもと、確かな組織へと発展しつつあります。持続可能な観光地づくりにはそのような組織が不可欠であり、その基盤を築けたことは本年度の大きな成果の一つであると考えられます。一方で、多くの方とつながることができたからこそ、組織としてまとまりを維持することが課題として見えてきました。特に学生の場合、大学間のスケジュール調整や情報共有が困難であり、それに加えて、活動への参加は任意であるため、学生間の意欲に差が生じることもあります。

これらの課題を踏まえ、組織としてシステムを明確化することが、今後の活動効果を最大化するために必要であると感じました。具体的には、定期的な情報共有会の開催、役割分担の明確化と責任感の醸成などが有効な手段として考えられます。

参加学生の振り返り

参加したばかりの頃は、右も左も分からず役に立てているのかすらも分らなかったのですが、活動が進むにつれて地域の方々や他大学の学生との繋がりが増え、喜ぶ地域の方々を見ると、このプロジェクトに携われて良かったと感じました。
(国際コミュニティ学部3年/太田 亘輝)

連携協力先の方の所感

本プロジェクトが3年目を迎え、ちゅうえマルシェやたのも船づくりワークショップの運営を主体的に担い、地域活性化に大きく貢献してくれました。特に冬のマルシェでは、閑散期にも関わらず多くの来場者を集め、責任感を持って運営していたことが印象的でした。学生たちが事業者のサポートを超えて中心的に活動してくれたことを嬉しく思います。来年度もさらに発展させる取り組みに期待しています。
(宮島ゲストハウス三國屋/寺澤 潤哉氏)



安芸太田町の自然を活用した魅力発信！

プロジェクト名

安芸太田に来てみんさい!!

プロジェクト概要

広島県安芸太田町を好きになってもらうことを目的として活動しています。特に食べ物や自然を活用した体験・イベントをPRするため、チラシ作成などの広報活動に取り組みます。



概要と具体的な活動

私たちは、安芸太田町に修大生を誘致することをメインに、約1年間様々な活動を行ってきました。

まず、広報については、7月に行われた熟議で、秋や冬に比べて夏の観光客が少ないという課題が挙げられました。そこで、夏のアクティビティの1つであるSUPについて、修大生を中心に広報を行いました。また、龍姫湖まつりや恐羅漢の「バスノー旅」についても、SNSやチラシを通して広くPRしました。

次に、安芸太田町の魅力を体感するための取材では、今回のメインであるSUPを私たち自身が実際に体験することで魅力を理解し、より良い広報ができるようになりました。また、様々な観光地に行き、その土地の魅力（景観やグルメなど）をよく理解しておくことで、安芸太田町の魅力を発信することができました。

最後に、龍姫湖まつりについては、龍姫湖まつりでの出店が難しい企業の支援として参加し、SUPやカヤックなどのウォーターアクティビティ体験などを取り扱う「Lake Ryuki Water Complex」様のPRを行いました。また、温井ダム近くにあるレストランの「きっちんたまがわ」様では、お店のPRだけでなく、お弁当やおはぎを合計60個販売し、完売することができました。

「地域商社あきおおた」様をはじめとした多くの企業様にご協力いただき、安芸太田町の魅力を広く伝えることができました。

活動を通しての成果と課題

私たちの活動の成果は、大きく分けて3点あります。

1点目は、龍姫湖まつりについてです。「きっちんたまがわ」様のお弁当とおはぎ合計60個の完売とウォーター



メンバー

[学生]

濱田 朋希・藤川 遥
森王 香衣・竹内 愛葉
中島 綾音・今田 弥伶
小田 真輝・新井 萌愛

[担当教職員]

森河 亮（法学部）

ポスター



アクティビティのチラシの配布を通して、イベントに訪れた方々に安芸太田町のお店やアクティビティを知ってもらうことができました。

2点目は、SUPの広報についてです。私たちが実際にSUPを体験して、その魅力を確認できました。そして、通常8,000円の体験費用が掛かるところを修大生を対象に3,000円に割引をしていただき、広報を行いました。その結果、12人の修大生にSUPの体験に来ていただくことができました。

3点目は、年間を通して安芸太田町の魅力発信を目的にSNSの運用を行ったことです。龍姫湖まつりなどのイベント情報に加えて、プロのカメラマンから提供していただいた写真を用いて、安芸太田町にある自然や文化も発信しました。

今年度の課題は、メンバー間での報告や連絡不足が目立ち、自主性が欠如していたことです。これにより、チーム全体の活動への貢献が限られた結果となり、目標達成に向けて効率的な進行ができませんでした。

参加学生の振り返り

今年度の活動は良い点もありましたが、反省点も多かったです。学生間の連携不足や、報連相がうまくいかなかったことがありましたが、新しい方との繋がり、新しい取り組みができたことで、昨年度までとは違う形で安芸太田町に関わることができました。来年度は反省点も踏まえ、さらに充実した活動ができるようにしたいです。

（国際コミュニティ学部2年／新井 萌愛）

連携協力先の方の所感

今年度も安芸太田町で活動していただき、ありがとうございます。発表資料や共に活動したイベントを通して、地域に寄り添い、交流を深めた成果が伝わりました。今後も若い力と地域の繋がりが続くことを願っています。

（みらい株式会社／長沼 拓磨 氏）



三次愛で田幸を豊かに

プロジェクト名

田幸を多幸に！

プロジェクト概要

三次市田幸地区の活性化に貢献するために三次市役所や三次観光推進機構の皆様と連携し、地域を広く知ってもらうことを目的にモデルコースやコラボ商品の開発をしました。



概要と具体的な活動

私たちは、主に2つの活動を行ってきました。

1つ目は、田幸地区の特産品であるぶどうを活かし、地域の飲食店と協力して新商品を開発する企画です。田幸地区のぶどう農家である上井田ブドウ園様と連携し、品種ごとの特徴や味のバランスについて学びました。それを基に、どの食品と組み合わせるとぶどうの魅力が引き立つかを一緒に考えました。三次市内の飲食店、5社程度に協力を呼びかけたところ、地元食材を使用する洋菓子店「PLACEdessert」様と、山陰を中心に店舗を展開する居酒屋「炉端かば三次店」様にご協力いただけることになりました。その後、新商品のイメージや商品名を提案し、試食会を経て、合計7点の商品を開発していただきました。商品には、「幸せの三次パンナコッタ」や「雲海ソフト」など三次にちなんだ名前を提案し、9月上旬から10月下旬まで販売していただきました。その結果、合計約600点、売り上げにして36万円の販売を達成しました。

2つ目は、観光モデルコースの考案およびチラシの作成です。地域住民の古川様の案内のもと、実際に観光地を訪れながら、3つのコースを設定しました。具体的には、塩町遺跡や古墳群をまわる「歴史探求コース」、自転車でぶどう農家をまわる「運動と食のコース」、有名観光地をまわる「芸術観光コース」です。完成したチラシは三次市内のいくつかの場所に設置し、多くの方々に手に取っていただきました。



メンバー

〔学生〕

野々下 友渚・小川 未来
内木 優登・小川 智也
梶谷 隆太郎・佐久間 蔵人
池本 百合菜・漆谷 壮太
高田 萌衣

〔担当教職員〕

澤 俊晴（国際コミュニティ学部）

ポスター



活動を通しての成果と課題

田幸のぶどうを知ってほしい農家と地域に根付いて地元食材を使いたいお店のマッチングに成功しました。来年度以降も農家と店舗間で仕入れを行う契約が成立し、販売店は安価でフレッシュなぶどうの仕入れができること、ぶどう農家は販路を拡大することができました。これにより、地産地消にも1歩近づくことができたと考えます。観光コースの企画では、学生が地域をまわってコースを作成したため、よりリアルな観光客の目線で観光プランを提案することができました。また、祭りを通して地域住民と直接交流し、田幸地区住民のあたたかさにも触れることができました。

課題としては、メンバー間の活動内容の共有や全員での田幸訪問が難しかったことが挙げられます。優先順位を決めて、活動を分担し、効率よく作業を進めていくことが重要であると学びました。さらに、観光コースを盛り込んだチラシには田幸の歴史や文化を紹介するページを作成すると、より内容の濃いものになったと考えます。

参加学生の振り返り

活動を通して、連携先とのつながりが大切だと思いました。多くの連携先と関わることで、知らなかった情報やアドバイスを獲得ことができ、スムーズに活動を進めることができたと思います。三次で新たな発見ができ、自分の成長にも繋がりました。
（国際コミュニティ学部2年／小川 未来）

連携協力先の方の所感

地元の生産者と商品を提供する店舗と話がしっかりできたことが成果につながりました。また観光マップを作成するために地域を回り、地元の人と交流したのは大きな経験です。三次愛にあふれた取り組みだったと思います。
（三次市役所 地域共創部 まちづくり交通課 課長／呑谷 巧氏）



プロジェクト名

安芸高田再発見!プロジェクト。

プロジェクト概要

私たちは、安芸高田市の魅力を発信し、その活性化を図ることを目的としています。今年度は安芸高田市役所の方にヒアリングの機会をいただき、神楽を中心とした魅力を発見する活動を行いました。

メンバー

[学生] 西川 大智・河久保 翔音・福本 悠介
遠崎 秀将・櫻木 豊
[担当教職員] 山崎 敦俊（商学部）



概要と具体的な活動

安芸高田市の魅力を発信していくことを目的として設定し、まずその魅力を私たちが理解すべく、実際に現地に赴きました。そこで地元の神楽団体に所属する安芸高田市役所商工観光課の西山様にヒアリングを行い、様々なお話を伺うことができました。西山様に地域による神楽の特色と歴史、保存と継承のために行われている取り組み、豆知識など、多岐に渡る内容を詳述していただきました。神楽は神への奉納や娯楽という役割のみならず、地域の結束を強めたり、歴史や文化を若い世代に伝えていく重要な役割も果たしています。ヒアリング終了後は吉田郡山城周辺を巡るなど、現地を散策しました。吉田郡山城は中国地方を代表する戦国武将の毛利元就の居城として知られる安芸高田市の観光名所です。この城は山城であり散策は登山となりました。この登山により、安芸高田市の良さの一つである緑豊かな景観や澄んだ空気といった自然を体感することができました。

これらの活動を通して、安芸高田市の神楽文化や地域についての理解を深めることができました。

参加学生の振り返り

実際に現地に赴くことによって、写真などでは得られない体験をすることができました。これを新しい挑戦や学びに繋げ、今後のプロジェクト活動だけではなく、メンバーそれぞれの成長にも繋げていきたいと思います。

（商学部1年／福本 悠介）

ポスター



プロジェクト名

平和台団地共助プラン

プロジェクト概要

平和台団地の活性化や町内会に参加する人を増やすために、町内会と広島銀行様と一緒に活動しています。今年度は団地に所在する安西高校様との連携を行いました。

メンバー

[学生] 小原 瑞稀・林 陽花・荒上 咲良・加藤 瑠菜
[担当教職員] 澤 俊晴（国際コミュニティ学部）



概要と具体的な活動

平和台団地では、町内会役員の負担軽減の取り組みが行われているが、それでもなお、広報部の業務が大変という課題があります。そこで、平和台団地内にある安西高校の生徒さんにイベントポスターの作成を依頼する提案を行いました。提案するにあたって、①町内会業務の負担軽減、②町内会と学生の繋がり強化、③高校生が作成することで若者にも訴求すること、④高校生の新たな活躍の場ができること、を考えました。町内会、高校生、広島銀行様と3ヶ月に1回、計4回の対面ミーティングを行いました。時間的に対面できないことがあるため、高校生と町内会がスムーズに連絡できるよう、「コラボテンプレ」を作成し、活用しました。町内会からは「業務を軽減することができた」、「新しい視点でのポスターを作成できた」と感想をいただきました。高校生からは「地域の方に喜んでてもらえてやりがいを感じる事ができた」、「これからも挑戦したい」と前向きな感想をいただくことができました。約2年間の活動を通して、よりよい地域を作るためには、町内会の方だけでなく、住民や地域に関わる方など全員の協力が必要だと実感しました。

参加学生の振り返り

活動していく中で、上手くいかないことが多かったですが、町内会の方、高校の方から前向きな感想をいただくことができ、活動してよかったと感じました。

（国際コミュニティ学部3年／小原 瑞稀）

ポスター



地域つながるプロジェクト・ 地域つながるスタートアッププロジェクト 2024 活動報告会

日時 2025年2月14日（金） 13:00～16:00
場所 広島修道大学 3号館 3101教室



活動報告会では、2つの「地域つながるスタートアッププロジェクト」と5つの「地域つながるプロジェクト」が、プレゼンテーションおよびポスターセッションで1年間の活動を報告しました。当日は、自治体・企業・団体・他大学の方々や、高校生、本学学生・教職員など、91名にご参加いただきました。

プレゼンテーション発表の後には、活動を支援していただいた連携先の方や担当教員から、学生へのあたたかいメッセージが贈られました。また、審査員からは今後の活動に向けたアドバイスやエールがあり、学生がこれまでの活動を振り返り、活動の発展につなげる時間となりました。

ご協力いただいた皆様へ感謝申し上げます。

プレゼンテーション 13:10～15:20

「地域つながるスタートアッププロジェクト」では、プロジェクトの目的や活動内容、活動を通して発見した地域の問題と解決策を報告し、今後のプロジェクトのプランを参加者に向けてプレゼンテーションしました。地域の方へのインタビュー調査や高校生との連携などプロジェクトごとに特色があり、地域を知り、地域の抱える課題を発見するために、活動に取り組んだ様子が伺えました。

「地域つながるプロジェクト」では、連携先や地域の方々の協力を得ながら、それぞれの地域課題に取り組んだ内容や活動成果をプレゼンテーションしました。多くの困難にぶつかりながらも、地域課題の解決に向けて、1年間、真摯に活動に取り組んできた学生たちの想いや成長した姿、そして地域に生まれた変化を多くの参加者に見ていただくことができました。



ポスターセッション 15:20～15:40

プレゼンテーションに続いて、ポスターセッションを行いました。プロジェクトごとに自作したポスターの前に立ち、来場者の方々へ向けて報告しました。プレゼンテーションで伝えきれなかった内容や活動を通して感じたことを、作成した成果物等を手にとって説明し、来場者からの疑問や質問に回答しました。



受賞プロジェクト

「地域つながるプロジェクト」について、審査員による評価・審査を行いました。審査は、「プロジェクトの目的・実施計画」、「活動内容あるいは調査・研究の充実度」、「地域課題の解決への寄与度」、「地域との連携度」を基準として行われました。審査員6名による審査結果をもとに、「最優秀賞」、「優秀賞」が贈られました。

2024年度受賞プロジェクトは以下のとおりです。

👑 最優秀賞 「田幸を多幸に!」

👑 優秀賞 「宮島観光活性化プロジェクト～中江町と創る新しい宮島～」

<審査員>（敬称略）

・株式会社インサイトラボ 代表取締役 藤原 明文
・株式会社 BPL 代表取締役 川本 真督
・ひろしま未来協創センター次長 河口 和也

・広島県地域政策局 中山間地域振興課 参事 長岡 秀幸
・ひろしま未来協創センター長 三浦 浩之
・商学部准教授 中園 宏幸





広島修道大学

[ひろしま未来協創センター]

〒731-3195 広島市安佐南区大塚東一丁目1番1号

TEL.082-830-1409